

暮らしに冷たい大型事業優先の市政から、市民の困難に寄りそうあったか市政へ

1. 市民とともに歩む公正な市政

市政の主人公は市民です。限られた予算の中で、市民の願いを実現する市政運営をおこなうには、まず、市長を先頭に市民との対話を重視し、市民に必要とされる職員としての意欲を引き出す市政運営で、市民とともに働く市役所をつくりま

① 市民との直接対話の機会を増やす

- ・ 市長も参加する「あったか懇談会」を定期的開催し、市民の声をくみ取り施策にいかします
- ・ 「地域支援員」を創設し、地域の課題に住民とともに対応します
- ・ 保育士、ケースワーカー、技術職など市民とかかわる職員体制を充実させます

② 特定の団体や個人に特別の対応をすることなく、公正な市政

- ・ 「同和」行政を終了させ、全市民対象の施策を充実させます 市営住宅の募集のゆがみを解消します

③ 「男女がともに輝く高知市男女共同参画条例」をいかし、男女平等の視点で市政全体を見直します

- ・ 女性の審議会等の選任比率向上や課長級以上への管理職登用を積極的に行います
- ・ 男性職員も育児休業を活用できる職場環境をつくりま

④ 旧町村の失われた支所機能をカバー

- ・ 鏡、土佐山、春野地域の支所機能を強化します

2. 市民の困難に寄り添い、あたたかい高知市へ

地方自治の目的は「住民の福祉の増進」です。これからの市政は「地域力」の再生がカギです。子育て、福祉・介護、防災など地域のネットワークづくり、特にマンパワーの確保・育成に全力を注ぎます。

① 遅れた子育て施策を当たり前の水準に

- ・ 生活弱者などの国保料の引き下げ、低所得者の窓口負担の軽減制度を創設します
- ・ 子どもの医療費無料化は、ほとんどの市町村で実施している中学卒業まで拡充します
- ・ 県内でも高知市以外すべてで実施している第3子以降の保育料無料化〔同時入所条件なし〕を実施します
- ・ 保育所・児童クラブの待機児解消をすすめます

② 子どもたちの学びの条件整備を推進し、それぞれの希望にそった多様な進路を保障します

- ・ すべての学校で中学校給食を早期に完全実施します 災害時対応など自校方式の可能性も検討します
- ・ 学校図書館への専任司書や、スクールソーシャルワーカーの配置充実をはかります
- ・ すべての小中学校にエアコンを設置します
- ・ 中1プロブレムへの対応を含めた市単支援員を増員し、教師の多忙化を解消し、子どもと向き合う時間を確保するため「事務支援員」を配置します

③ 医療・介護分野を励まし、仕事・雇用の場を広げます

- ・ 医療・介護・福祉分野を雇用の場として重視し、支援を充実させます
- ・ 介護報酬削減の影響調査を実施し、事業所支援に活かします
- ・ 特養ホームの待機者解消対策をすすめます

④ 障害者・高齢者への支援の充実

- ・ 重度心身障害児・者医療費助成(福祉医療)の対象を拡大します
- ・ 点字図書館の市民サービスを充実させます
- ・ 「買い物難民」の解消へ、住み慣れた地域で暮らせる環境を整えます
- ・ デマンドタクシー、タクシーチケットなど外出支援を充実させます
- ・ 介護保険の対象とならない方でも使えるバリアフリー住宅リフォーム助成制度をつくりま

3. 市民との協働、マンパワーの充実で地域力と防災力を築く

遅れている防災対策を推進します。単身高齢者、一人親家庭が安心して暮らせる福祉のネットワークづくりと一体の課題であり、官民協働で、その要となる「地域力」＝マンパワーを充実させます。

① 市民との協働で、防災・福祉の拠点をつくります

- ・ 小学校区ごとに、拠点となる「まちなか支援センター」(集活センターの市内版)を委託・設置します
- ・ 中核となる市民と協力し日常的に要援護者を把握し、福祉と災害対策を一体的にとりくみます

② 長期浸水想定地域のある都市としての課題解決

- ・ 新市庁舎、新図書館の長期浸水対策を再検討します
- ・ 東部総合運動場の災害時拠点機能を再検討します
- ・ 他府県との広域協力にかかわる内水排除計画を策定・推進します

③ 地域内の循環経済の促進 大型事業でなく、身近な事業を着実に実施

- ・ 中小企業振興条例を制定し、工事や委託業務の市内業者への優先発注などをすすめます
- ・ 地域の商店街を活性化させます
- ・ 住宅リフォーム助成制度を拡充します
- ・ 農林水産業への支援を充実させます 中学校給食の地産地消のための契約栽培などの仕組みづくりなど
- ・ 生活道・橋の耐震工事、バリアフリー化などを促進します

4. 未来をひらく高知らしい環境文化都市へ

公共施設を有効に活用する視点で、「つくる」から「直して使う」転換をはかります。

また、街のシンボルとしてのお城、お堀と鏡川などの水辺、路面電車の風景を活かした回遊性のある街づくり、中山間地域、田園地帯、海岸線などそれぞれのよさを活かした希望あるまちづくりをすすめます。

① 「つくる」から「直して使う」への転換

- ・ 市営住宅の空き期間を短縮し、現存する市の資産を活かします
- ・ 市立学校の空き教室の活用など、施設の多目的活用をすすめます
- ・ 震災に弱い下水管延長による下水道行政から合併浄化槽への転換を導入します

② 家庭ゴミの有料化はせず減量を加速

- ・ 清掃工場は、次の改築時のコンパクト化を視野に、市民協働でゴミ減量を推進します

③ 原発再稼働に反対し、自然エネルギーの普及促進

- ・ 周辺環境に配慮しながら、太陽光、小水力発電などの普及を推進します

④ 歴史と文化を活かしたまちづくり

- ・ 高知城の内堀、外堀や浦戸城址など、ホンモノの文化を活かします
- ・ 日本の憲政史の流れを高知観光につなげます 植木枝盛など「日本国憲法源流の地」を発信します

5. 平和・暮らし、民主主義の声を国に届ける

安倍政権のもとでの安保法制＝戦争法の可決成立は、立憲主義、平和主義、民主主義の根幹をゆるがす近代政治の危機であり、憲法の規定する地方自治に由来している自治体運営にとっても重大な問題です。

自由民権、女性参政権誕生の地である高知市の代表として、国の暴走する政治と対決し、「戦争法を廃止し、立憲主義を守ろう」「原発ゼロ、再稼働反対」など市民の声を国にしっかり届けます。

財源をつくります

高知市の財政再建計画[09-13 年度]では、借金の前倒し返済と基金の積み増しで、計画を166 億円も上回る改善となっています。今後の起債発行を抑制・平準化し、年間数億円程度の経常財源を生み出し「あったか高知」の実現に踏み出します。そのために、今後の大型事業を抑制し、起債償還の山をつくらぬ財政規律を大事にします。